

今月のコラム

民衣食足りて礼節を知り 繚々花卉繁栄のアジア各国

シンガポールに見る繚々花卉最前線

M3Labo ミューキュービックラボ 村松 誠

欧米先進国の模倣者日本が「ライジング SUN」といわれ、GNP 世界第2位となり、「JAPAN AS NO.1」を自負してたがバブル以降の足踏み状態の間に、中国に抜かれ、アジア各国は急速度で発展拡大し、各国の HAB 空港規模がその将来性を代表しています。その中でいち早く経済国際化したシンガポールはもはや日本に学ぶものは無しまで、街開発・公園事業・都市交通インフラにおいて計画性も長期視野で進んでおり、発展途上時代のイメージでは想定できない発展を遂げています。東京 /NY/ ロンドン /パリは20世紀の遺跡という論もあります。その中で今回は代表的な2つをご紹介します。その一つは「マリーナ・ベイ・サンズ」ホテル。天空57階200メートルの3棟の高層に屋外のプールと街路樹屋上緑化。日本でいえばサンシャイン60を三棟つなげてた規模。海も水門で締めて慢性的な水不足解消への淡水化。マーライオンで有名なあの海です。次がマリーナサウスの来年6月に誕生予定の22万種のドーム型植物園” ガーデنز・バイ・ザ・ベイ”・マリーナ・サウス、マリーナイースト、マリーナセンターの3つのエリア構成され、総面積は101ヘクタールですが、室温を17-25度に保ち地中海植物の展示する「涼室」なのです。ちなみに市街地郊外の高級住宅街の有名なシンガポール植物園の「蘭園」は常温が25度-35度ですから屋外展示。アジア最大の経済都市とリゾートに変身中のこの都市国家は、好評の動物園のナイトサファリにマイアミのエバーグレースのようなリバーサファリも追加構築中です。21世紀は欧米でなくアジアの世紀になるとの論評は疑えません。上述の天空のヤシの木並木以外にも伊藤理事からの会報誌にもコメントありましたが、その園芸文化の進化はオーチャード通り公園の熱帯植物でのイングリッシュガーデン・博物館横の国立図書館やセントーサ島行きモノレールの駅の壁面緑化など学ぶべきものも多く11月の蘭展の時の” ガーデنز・バイ・ザ・ベイ” 仮オープンがいまから楽しみです。





カエデ
kaede

NPO ガーデンを考える会が社会貢献

被災地の皆様への支援について

会員の皆様方は既に何らかの支援活動を行っておられるとは思いますが、このような大災害で、しかも広範囲で長期に渡る状況下では、ガーデンを考える会のみならず、業界の皆で何らかの統一した支援活動をする必要性があるとの認識を持ちました。

我々が考えられる支援活動の一つの案としては、被災地域の避難所に、花苗や野菜苗及びそれを植える培用土・ポット・肥料等を届けて、咲いた花や収穫した野菜で楽しんで頂くものです。

このような支援案に賛同頂ける会員の方々と共に、方策等を話し合うため、賛同頂ける皆様方におかれましては、なるべく早く事務局に連絡頂けると有難いと思っています。

平成 23 年 4 月 25 日 ガーデンを考える会会長 水野隆

NPO ガーデンを考える会総会 記念セミナー

國武久登氏、山下ようこ氏を講師に

6月8日、東天紅上野店

NPOガーデンを考える会（水野隆会長）は、6月8日に開催する通常総会后、記念セミナーを開催することになり、広く参加者を募集しています。

今回のセミナーは、果樹、特にブルーベリーでは第1人者といわれる國武久登宮崎大学農学部副学部長教授が「家庭果樹を目的とした品種改良の必要性」一機能性の高いブルーベリー葉の開発とその将来展望」と題して講演。これからの果樹苗の品種改良の方向性、生産販売のポイントを学びます。

山下ようこ東京都議会議員は「環境の世紀の植物産業～オフィス室内緑化を東京発のグリーンニューディールにする!」と題し、条例による室内緑化の義務化で働く人の健康から植物産業の発展さらに経済効果を見込む、山下議員の室内緑化条例化に向けた都政での取り組みを紹介します。

6月8日14時より17時、東天紅上野店（東京都台東区）において開催。講演会后、情報交換懇親会もあります。会費は2人目より、及び非会員は5千円。

問合せ、申込みはガーデンを考える会事務局（Tel 052-571-7911）まで。



山下ようこ氏 國武久登氏

「色彩で売上げアップ」需要創造セミナー

“色”を味方につけることが非常に重要

当会（水野隆会長）は、2011年初めてのセミナー「色彩で売上げアップ」需要創造セミナーを3月5日午後、豊明市文化会館（愛知県豊明市）において開催し、40名余りの小売り、造園関係者などが、色彩の重要性について学びました。講師は、衣・食・住の色彩計画を手がける色彩のプロフェッショナルで日本パーソナルカラーリスト協会理事ヨシタミチコ氏。

セミナーは、前田理事の司会で進められ、最初に西日本本部会代表幹事の小塚理事より挨拶があった後、講演がありました。

ヨシタ氏は、色の重要性について美容院を例に挙げ、15万軒から21万軒に増加しているが、色を提案している店が増えているとし、色をいかに味方につけるかが重要。ガーデンでも、庭にベランダにきれい、うれしい、幸せになる夢を買いにくるので、それは色で提案できるとしました。また、色は2つの重要効果があり、①印象効果は色以外ではできない、②心理効果、気分を演出するのにも色である、とし色をいかに味方につけるかが大事であるとしました。

セミナー会場と
ヨシタ講師（円内）





カエデ
kaede

フラワーバレンタインに積極対応

新潟のショップ、フレンズ

「本物のバレンタインを始めよう」スローガンを基に花き流通、小売が一丸となって、花き消費拡大のために具体的なアクションするべく、2月にフラワーバレンタインキャンペーンが繰り広げられたが、着眼点に賛同した理事会社であるフレンズがコーナー展開をし来店客にアピールした。

「いろいろな反省点は今後検討することとし、五年後、十年後にはバレンタインデーが消費の大きな物日となるよう期待していきます」（石川昇社長）

手作りの特大POPでPRした
フラワーバレンタインコーナー



バラクラ「第2回寄植えの芸術」

横浜 コンチネンタルホテルで華やかに開催

バラクライングリッシュガーデンでは、第2回目となる「寄植え芸術」を2月、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにおいて開催した。

今年第1回の寄植え作品発表会として開かれたもので、ケイ山田ガーデニングスクールの最高位のマスター作品が24点など、過去最多の合計130の力作が一堂にあつまり、華やかに展示された。

作品が集まってから、ケイ山田氏が即興的に展示装飾したが、圧倒的な華やかさを演出した「寄植えの芸術」展示会場とケイ山田氏



会員紹介

株式会社ニチカン

お取引先 仕入先の多くの方々を支えられ創業より45年目を迎えた弊社は日本で最初に被覆鋼管によるのぼり竿を開発したベンチャー企業です。

この技術を生かしのぼり竿 農園芸支柱 雑貨パイプ等 様々な生活関連用品を開発製造しております。

お客様と共に発展するをスローガンに高品質かつ快適自然志向による 第二の創業時代を迎え お客様の全てのご要望にお応えする態勢を整え ご相談をお待ちしております。

〒553-0002
大阪市福島区鷺洲3丁目10番11号
TEL :06-6451-3434
FAX :06-6451-3415
<http://www.nichikan.co.jp/>





今あらためて思うこと

林 博俊

国内観測史上最大の地震による被害から、依然として復旧途上の地域はたくさんありますが、復興に向けて一歩一歩進んでいます。しかしながら、原発事故による放射性物質の飛散問題は、近隣の農林水産業に大きな被害を与え続けています。

空気や水、土や光などの自然の恵みは、今までは当たり前にあるのが普通で、なくなることはないと思っていましたが、今回の震災で経験した不自由さがあらためてその大切さを教えてくれました。

近年の園芸業界の景気低迷からどうしても価格重視の生産体系をとらざるを得ない現状ですが、今まで以上に環境に配慮した生産、販売の実践もこれからは必要なことではないかと考えています。自然の恵みは限りがあるからこそ、安心して、安全な園芸の環境を次の世代につなぐことがとても大事だと思っています。

農場では、シクラメンの苗が何事もなかったかのように、日を追うごとに大きくなっています。植物はどんなことがあっても常に育ち続けています。毎日大きくなっていく植物たちを見ているとなんだか楽しくなってきます。自分もけっして立ち止まることなく、花づくりを通して、少しでも多くの人に園芸の楽しさを提供させていただければと思っています。

有限会社 林園芸

HP <http://www.hayashiengei.com>



生産者部会より

グズマニア

特徴はなんといっても彩と持ちのよさです。室内用の観葉植物ですのでガーデンには取り入れられませんが、春から夏にかけてはおよそ三ヶ月、冬場に関しては手間もかからずに長ければ半年ほど色を保ちつづけます。室内装飾や寄せ植えのギフトとしてよく用いられますが、苞（花首）を切花として使っても一ヶ月はゆうに姿を変えずに観賞していただけます。色も、赤・黄・ピンク・ムラサキ・オレンジ・ポルドーなどさまざまで、季節に応じた彩を演出するアクセントに利用されることも少なくありません。

彩・花持ち・手間要らずの3拍子揃ったグズマニアをお中元ギフトにいかかでしょうか。

東海支部 近藤雄三（衣浦農園）

